サルの親子が抱擁をする理由

田中友貴

要旨

サルの親子が抱擁をする理由を考察するため、ライブカメラを用いた観察により、抱擁の前後最中の行動を集計した。結果、抱擁にはストレスや不安を軽減する効果や子供を守る目的があると考察できた。

キーワード：抱擁、サル、親子

Ⅰ. はじめに

1) 研究の背景

抱擁とは抱きかかえること、また、抱き合ってて愛撫することである。飯塚(2009)によると人間の親子においては、精神分析家や心理学者が子どもの健康的な心的発達等に対する抱擁の重要性を理論的に指摘してきたが、これらの理論は、彼らの長年の臨床における経験や観察から導き出されたものであり、これらの精緻な理論を実証するような研究は、未だなされていないのが実態であり、今後の研究が待たれるところである。ゆえに、本研究は最終的には人間の抱擁の効果や目的を実証する目的でサルで擬似的に観察実験を行ったものである。サルの親子の抱擁についてはその役割が明らかにされた先行研究を見つけることができなかったが、中川(2018)によると金華山島、屋久島のニホンザルにおいて抱擁が確認され、いずれもリップスマッキングやガーニー(後述)を伴うこと以外に，闘争直後や毛繕いの中断後などの緊張状態で行われた。このことから、抱擁には緊張状態を緩和する目的がある可能性があると考えられる。よって、本研究では対象をニホンザルの親子とし抱擁前の行動に加え、抱擁中、抱擁後の行動も分析することでニホンザルの親子が抱擁をする目的を考察できると考えた。

2)ニホンザルの年齢層

ニホンザルの寿命は 20-25 歳である。0 歳から 1 歳までをアカンボウ期、1 歳から 4 歳までをコドモ期、オスでは 5 歳から 9 歳ごろまで、メスでは 5 歳から 6 歳ごろまでをワカモノ期、それ以降をオトナ期として区別できる(京都大学人類進化論研究室）。

Ⅱ. 手法

淡路モンキーセンターのライブカメラで観察を開始してから 30 秒おきに特定の親子の行動をそれぞれ 30 分間記録した。

行動	定義
威嚇	目を合わせたり、歯を見せたり、大声を出したりすること
睡眠	座った状態、横になった状態で停止すること
遊び	紐を引っ張ったり、水に浸かったりすること
抱擁行動	相手の背中やお腹に手を回すこと
身体接触	抱擁、毛繕い以外で相手に接触すること
自分の毛繕い	自分の毛を指や爪で整えたり、舌で舐めたりすること
相手への毛繕い	相手の毛を指や爪で整えたり、舌で舐めたりすること
採食	餌を口に入れること
ガーニー	グニュグニュグニュという音声を出すこと
リップスマッキング	唇を突き出し気味にしてリズミカルに小刻みに開閉すること
その他	上記で定義されていない行動

表　本研究におけるニホンザルの行動の定義

III. 結果

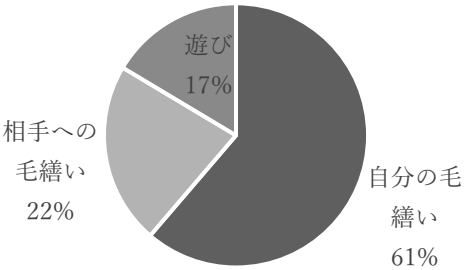


図 1 抱擁の直前に行われた割合

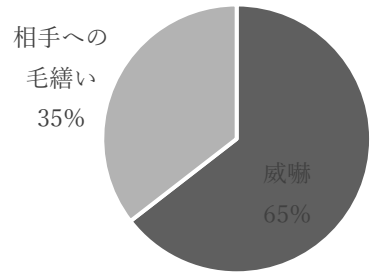


図 2 抱擁と同時に行われた割合

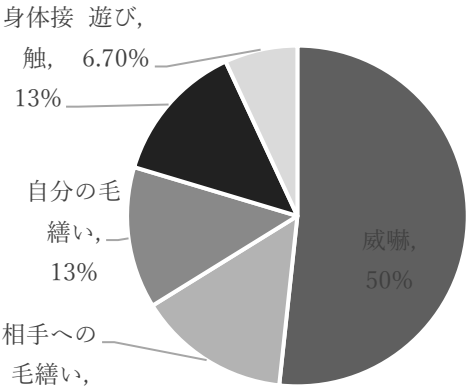


図 3 抱擁の直後に行われた割合

IV. 考察

図 1 より、抱擁の直前に行われた割合は自分の毛繕いが 61%で最も高い。毛繕いは身体を清潔に保つだけでなく、不安やストレスを軽減する効果があると考えられており、毛繕い後に抱擁に移行したということから抱擁にも不安やストレスを軽減する効果があると考えられる。図 2 より、抱擁と同時に行われた割合は威嚇が 65%で最も高い。威嚇は全て親子間ではなく親から他のオトナザルへのものであった。この時の抱擁は親ザルが子ザルを他のオトナザルから守るための行動であると考えられる。図 3 より、抱擁の直後に行われた割合は威嚇が 50%で最も高い。この時の抱擁も親ザルが子ザルを他のオトナザルから守るための行動であると考えられる。中川(2018)と比較するとリップスマッキングやガーニーは行われず、闘争直後の抱擁も行われなかったが、相手への毛繕いは抱擁の直前に 22%行われた。Ueno, Yamada&Nakamachi (2015)によると毛繕いをされた個体は、ストレスが減少するので毛繕い後に抱擁に移行したということからまた抱擁にも同様の効果があると考えられる。

V. 結論

ニホンザルの抱擁にはストレスや不安を軽減する効果や子供を守る目的があると考えられる。

謝辞

本論文の作成にあたり、終始適切な指導を賜り、また、丁寧に指導してくださった庵原仁先生に感謝します。

文　献

飯塚有紀.乳児の「抱っこ」に関する心理学的研究の展望と今後の課題. 人間文化創成科学論叢第 12 巻.2009.

Ueno, Yamada, & Nakamichi (2015) Emotional states after grooming interactions in Japanese macaques (Macaca fuscata). Journal of Comparative Psychology 129: 394-401. doi: 10.1037/a0039688

京都大学大学院理学研究科生物科学専攻動物学系.”発達”.人類進化論研究室. https://jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp/FuscataHome/hattatsu.html,(参照 2025-11-19)

中川尚史.金華山島のニホンザルにおける抱擁行動パタンの変異とその代替行動.第 34 回日本霊長類学会大会.2018-7.